知の理論（TOK）　指導力の改善に向けた取組みの成果と課題

TOK コーディネーター　永井　智大

１．要旨

現行の「『知の理論』（TOK）指導の手引き」に基づく TOK の指導は、本校 17 期生をもって３回目となる。本報告書では、本校 15 期生から 17 期生のスコアに関するデータを踏まえて、特に 17 期生に対する指導の改善に向けた取組みを振り返り、指導の改善に向けた取組みの成果と課題をまとめる。

２．指導・評価の結果

まず、指導と評価の結果について確認する。具体的には、指導の成果を確認するために、評価課題の点数とスコアの平均値の推移を確認する。さらに、評価の精度を確認するために、見込点②と最終結果の差異の平均値の推移を確認する。

2.1. 評価課題の点数とスコアの平均値の推移

15 期生の評価課題の点数とスコアの平均値を 0 とした場合の数値の加減を、下表の通り、項目別にまとめた。なお、スコアについては、Ａ～Ｅのスコアをそれぞれ５点～０点に換算して平均値を算出している。TOK 展示とスコアについては数値が上昇している一方で、TOK エッセイと合計点については数値が下降している。

表１　評価課題の点数とスコアの平均値の推移

	TOK 展示	TOK エッセイ	合計点	スコア
15 期生	0.00	0.00	0.00	0.00
16 期生	+3.95	-0.44	+3.06	+0.50
17 期生	+2.04	-0.87	-0.33	+0.01

2.2. 見込点②と最終結果の差異の絶対値の平均値の推移

見込点②と最終結果の差異の絶対値の平均値を、下表の通り、項目別にまとめた。スコアについては、前項と同様に換算している。TOK 展示については、16 期生以降は外部モデレーションによる点数の修正は受けていないため、差異は 0 となっている。その他の項目については、17 期生における評価の精度が最も高いことがわかる。

表２　見込点②と最終結果の差異の絶対値の平均値の推移

	TOK 展示	TOK エッセイ	合計点	スコア
15 期生	2.67	1.62	4.95	0.71
16 期生	0.00	2.56	5.12	0.80
17 期生	0.00	1.50	3.00	0.38

３．17 期生に対する指導の改善に向けた取組み

次に、17 期生に対する指導の改善に向けた取組みをまとめる。

3.1. TOK 展示

まず、評価の精度を向上させるために、TOK 展示の性質の理解の深化を図った。具体的には、サブジェクトレポートで TOK 展示に求められる要素を再確認したうえで、サンプルを分析して評価基準を調整した。なお、サンプルの分析に当たっては、英語の TOK 展示コメンタリーの和訳も行いながら、できるだけ多くのサンプル収集に努めた。

次に、指導を改善するために、教材と指導方法をブラッシュアップした。例えば、生徒に提示する TOK 展示コメンタリーの構成モデルについて、本論の議論のさらなる発展のために序論と結論の廃止を推奨する等、内容の更新を行った。また、生徒が必要な要素を満たした TOK 展示コメンタリーを執筆できるよう、事物の実社会の文脈の有無のチェックを徹底した。

3.2. TOK エッセイ

まず、評価の精度を向上させるために、TOK エッセイの性質の理解の深化を図った。TOK 展示と同様に、サンプルの分析を行ったが、MyIB 上の日本語のサンプルが少なかったため、多くの英語の TOK エッセイを和訳せざるを得なかった。また、採点開示を受けた 16 期生の TOK エッセイを用いて、多くの採点練習を行った。さらに、担当教員間で認識を共有するために、チームでの採点練習も行った。

次に、指導を改善するために、教材と指導方法をブラッシュアップした。例えば、生徒に提示する TOK エッセイの構成モデルについて、所定課題や議論の内容に合わせて生徒が選択できるよう、2 パターンを提示した。また、生徒が必要な要素を満たした TOK エッセイが執筆できる、「さまざまな視点の評価」についてより意識的に指導した。

４．成果と課題

最後に、指導と評価の結果を踏まえて、指導の改善に向けた取組みの成果と課題をまとめる。

4.1. 成果

評価の精度の向上については、評価課題の性質に関する理解の深化、教員間の情報共有の促進により、達成できたと考える。また、TOK 展示に関する指導の改善についても、その性質を理解した指導を確立したことで、おおむね達成できたと考える。

4.2. 課題

TOK エッセイの指導の改善については、十分に達成できていないと考える。原因の一つとして、評価課題に関わる指導の直前に改善に取り組んでおり、AOK に関する授業での指導が十分に行き届いていなかったことが考えられる。また、教員間で指導の仕方に違いがあり、指導の一貫性についても改善の余地がある。今後は、日々の授業の中で評価課題と関連する指導をより意識的に行うとともに、指導のノウハウに関する TOK 担当教員間の情報共有に努める。